

いろいろといろ

よん

なほ



## この本は

---

この本は、主に、ツイッターで書いているツイノベ、#twnovelをまとめたもの、NO4です。

一冊目 <http://p.booklog.jp/book/36687>

二冊目 <http://p.booklog.jp/book/47555>

三冊目 <http://p.booklog.jp/book/49689>

100年眠ったと言われてもピンとこない。  
たまった新聞を読みあさり、自分の置かれてる状況を知る。  
そうキス。キスでお目覚めなの。  
初めてってわけでもないしそれはいいわ。  
だけど運命なんかに相手を決められたくないの。  
私が、選ぶ。

[#twnovel](#)

「お姫様争奪 風雲！イバラ城」  
精鋭求む。

## 照明さん

---

私の人生に照明さんが配属された。

彼の仕事は私を明るく照らすこと。

「照明さんが必要って実は結構年？」「あの顔で女優気取り？」ヒソヒソ。

しょんぼりする私に照明さんは言う。

「羨ましがってるだけだ顔あげろ」うん。

照明さんは私を照らす。

生きる道に光を当て、人生を美しく彩る。

[#twnovel](#)

## お天気予報士

---

今日のあの子のお天気は？お天気予報士に聞いてみる。

「今日のお天気はご機嫌時々斜め、場合によってはふられますので折りたたみ傘のご用意を」  
望んだ通りの天気じゃないけど、それくらいならいけるかな？

[#twnovel](#)

告白した。ふられた。

「ふられるって言ったのに」

お天気予報士は僕を撫でる。

## 絶滅危惧種

---

絶滅寸前の人間を保護しよう。

天使達は人間を一所に集め、住処を与えて、食事も準備。

産めよ増やせよ。一年後。どういうわけか人は減る。

一体どういうことなのか。

「別に滅びていいし」「増えたら援助なくなるんでしょ？」「だって恋愛できる顔じゃ」

絶滅していいような気がしてきた。

[#twnovel](#)

## 螢祭り

---

ふわふわ。螢が光る。光に照らされた人々の笑顔。

ふわふわ。光が消える。深い闇に飲まれる笑顔。

見慣れぬ景色に子が問うた。

「母さんあれは一体なあに」

母は答える。

「あれは人よ」昔は沢山いたものよ。

年に一度の螢祭り。

集った螢が人間の、嘗ての栄華を懐かしみ映す、幽玄の夜。

[#twnovel](#)

## レンタル

---

俺はレンタル屋で働いてる。

ある日女がやって来て「とりあえず50年くらい」って。

綺麗なのに可哀想な人なのかなって思いつつも

「お買いあげになった方が」と親切な俺。

「あらおいくら?」「三千円みたいです」「じゃいただくわ」

俺はおねーさんに連れ去られ結婚。

したいので働きます。

[#twnovel](#)

## 求婚

---

結婚して、子供もできて、倦怠期も過ぎ、穏やかな日々。

今更過ぎて言えなかった。

そして今、花に囲まれ笑う君。

今更だけれど、君に言いたい事がある。

古びた婚約指輪を君の白い指にそっとはめた。

「結婚して下さい。次も次も」

言えなかった求婚。

愚かな僕を君は天国で笑うだろうか。

[#twnovel](#)

## 未来からの手紙

---

「作家になれないよ」未来の俺からの手紙に愕然とした。

こんな宣告辛過ぎる。

だけど俺、書くの好き。書き続けるのは自由だよね。俺は俺の為に書く。

### [#twnovel](#)

十年後、俺は作家になった。

嘘つきめ、と思ったら手紙。

「お前反抗的じゃん？」

作戦だったらしい。

さすが俺。俺を知り尽くしてる。

## 貝

---

海が汚れて、貝は住処に困ってた。  
海じゃなくてもいいのかも。人の世界はどうかしら。  
軒下にそっと忍び込むと、案外海より住みやすい。

### [#twnovel](#)

貝だ。こんな軒下にいるなんて。  
波の音を聞きたくなって耳に当ててみる。  
「浮気...離婚...親権...」  
貝は海の波など忘れ、家庭の波風を記憶する。

## 看板娘

---

看板娘の資格をとった。

なのに全然仕事がない。不景気に加え、上が引退しないのだ。

若い娘達は立ち上がる。

日本経済も自分の経済も救わなきゃ。新規開拓よ！

[#twnovel](#)

無数に広がる商店。こんな所を探してた。

「いらっしゃいませご主人様」

路面店もネットショップも、迎える心が変わりなし。

色々

---

男はみんなあの子が好き。

俺色に染めたくなるってね。

貴方は全然気がつかないの？あの子に染まって貴方らしさがぼんやり薄まってることに。

それより私とまじわりましょう。

全く違う新しい色、なりたいなんて思わない？

私は赤。情熱の赤。

青なら紫、緑は黄。激しく貴方を変えてあげる。

[#twnovel](#)

## にわとりたまご

---

卵が先か鶏が先か。

今こそ決着をつける時。

睨み合う双方。

「お前は俺から生まれた」

埒があかない。

第三者の判断が必要だ。料理人が召喚される。

緊張が走った。

「お、お先どうぞ」先を譲り合う。

料理人は呆れてそれらで親子丼を作った。

鶏が先卵が後。

けれど返事も苦情もない。

[#twnovel](#)

## かくれんぼ係

---

かくれんぼ係は隠れていた。

見つからないようにするのが彼のお仕事。

そして期限は見つかるまで。

慣れた様子で身を隠す。

もしも一生見つからなかったら。もしも一生独りだったら。

眼下の雑踏を眺め、煙草を一本くわえた。

追いつかれないように。

彼は恐怖や孤独からもひっそり身を隠す。

[#twnovel](#)

## ロールケーキの日

---

ロールケーキは儲かるって組合の奴らが言うから、うちでも作ろうと思う。

けど和菓子屋の誇りは捨てらんねえ。

だから「和すい一つ風」にしようと思う。

店の命、粒餡が中身だ。生地は米粉？って米じゃダメか？米、手につくな。海苔で...

[#twnovel](#)

「じいじ私これ知ってる」「何と思う」「太巻き」

## 量り屋

---

結婚か。踏み切れない僕の前に「愛はかります」の貼り紙。

店内には女が一人、愛を数値化するという。

彼女の愛を量って下さい。女は依頼に頷いた。

[#twnovel](#)

不機嫌そうな彼女を執拗に計測。

「70」結果が出るや否や「愛を量るとか最低」と、数の意味を知る前にお別れ。

何か謀られた気がする。

## 金星

---

金星の太陽面通過見るんだ。黒い眼鏡で太陽を覗く。

わーホント黒子みたい。思ったより大きいな。動き速いってか速すぎ？ぐるぐる回りだした？こんな軌道って...

僕は眼鏡を確認する。

黒いフィルムの上を歩く天道虫。

僕の金星は眼鏡の端っこまで辿り着くと、太陽目指して飛んでいった。

[#twnovel](#)

## インスタントハッピー

---

「待ち時間3分の幸せインスタントハッピー」

なんて商品が出たから早速お買いあげ。

百円待ち時間3分で手に入る幸せなんか、と思いながらもうきうきしてお湯を注ぎ、幸せを妄想する。

3分だ。

中には麺。食べる。旨い。飲み干す。底に文字。

「期待してる時が一番幸せ」

(´・ω・`)

[#twnovel](#)

## 口紅桃子

---

キスして？と誘われた。

俺を誘ったのは妻の口紅。

上品なピンクを裏切る大胆な彼女に俺は溺れた。

彼女はキスが上手かった。妻の持ち物とこんな事をする背徳感も魅力だった。

激しいキスに身を減らす彼女。

私を忘れないで。

最期のキスの後口紅を落とせない俺は、妻の視線にも気づかない。

[#twnovel](#)

## 逃亡者

---

俺の目撃情報がTVで流れ続ける。

確かにいた場所。行ったこともない場所。あまり正確とは言えない情報だ。

けれど「いた」と報道された地域は、人の目が厳しくなるからいられない。

次はどこへ逃げようか。

[#twnovel](#)

「逮捕する」

「どうしてここが？」

「お前の目撃情報流してないのここだけだ」

## 青い鳥

---

「幸せの青い鳥です」女は鳥籠を掲げた。  
溜息、そして祈る人々。  
何もいないのにどういう事だ。裸の王様みたいなもんか？  
正直な心を試されている。  
「鳥なんかないぞ」  
ざわざわ。見えない人がいるなんて。  
女は鳥籠を開けた。皆の視線が一斉に同じ方向を追う。  
羽音が聞こえた気がした。

[#twnovel](#)

## 瞬く

---

世にも稀なる瞬く小鳥は瞬く木の実を食べるらしい。  
それなら木の実を育てよう。  
手間暇かかるその苗を、労を厭わず十余年。  
苗は木となり実をつけた。  
綺麗に瞬く木の实にある日、瞬く小鳥が寄ってくる。  
僕の木の実を啄む小鳥。  
僕の木の実を、僕の、僕の。  
僕は小鳥を撃ち落とす。

[#twnovel](#)

## 翳

---

翳雲飛ぶ空を眺める。白い白い翳雲。

爪を研いで、狙い定める。

あの3匹目の翳雲。あれが一番美味しそう。

さあ行くよ。屋根の上から、僕は飛ぶ。

[#twnovel](#)

落ちた。転がる。緑の芝生。仰向けになり、僕は青い、青い空を見た。

翳雲じゃ僕には小さすぎるんだぜ。

今度は鯨雲、狙おうかにか。

## ロック

---

心の内側から鍵をかける。

恋心を閉じ込めて殺せば、完璧な密室の出来上がり。

[#twnovel](#)

「天気いいね」「この本いいよ」

扉の外から話す君。

「中から鍵を開けて貰えばこの密室は破れるわ」

何その解決。残念だけど恋心は。

ガチャ。開いた？破れた密室。

「犯人の独白お願いね」名探偵の君が笑う。

## フォロワーさん

---

僕の人生にフォロワーさんがついた。

僕の平凡な毎日を、気ままに覗いて消えていく。

今日は天気も悪いから、フォロワーさんも来ないよね。

傘の影からそっと覗くと軒下にいた。雨宿りするフォロワーさん。

僕はどうぞと傘に招く。

始めて互いに名前を呼んで、今日という日に星をつけた。

[#twnovel](#)

## 図書館17時

---

図書館に本を貸す。

文芸、SF、推理小説。名作、新作、自作、同人。本の種類は問われない。

17時。

鳩時計が五回鳴いて正面扉が閉まった後で、違う扉の鍵が開く。

冷たい風がスーッと通り、見えない指先頁をめくる。

これが噂のラノベですか。

読書家は死んでも読書家なのだ。

[#twnovel](#)

## 夢

---

私の夢をいつも貴方は否定した。

絵本作家も図書館司書も考古学者も何もかも。

もっと手堅く生きなさい。もっと現実考えて。

だからこの先夢はみない。

けれども最後にひとつだけ、伝えてみたい夢がある。

貴方のようにになりたいの。

もしそのように伝えたならば、母は何と言うのだろうか。

[#twnovel](#)

## 雨傘

---

僕の傘は有能で雨じゃなくとも防いでくれる。  
誰かの悪意も悲しみも重すぎる責任も全て全て。  
どんな嵐も決しておきない実に平和な僕の日々。  
今日も雨。いつものように傘をさす。

「お願いいれて」

傘に飛びこみ笑う君。滴る雨粒きらりと光る。  
たまには悪くないかもな。相合傘の下で笑う。

[#twnovel](#)

## 梅雨

---

梅雨。空から雨の如く降る梅を拾う子供達。  
綺麗で大きい梅だけが梅干しとしておいしくなれる。  
子供達は梅を集め、梅婆ちゃんの元へ行く。  
梅婆ちゃんは梅を 飴に取り替えっこしてくれるのだ。  
そして飴がつきた頃、子供と一緒に梅を漬ける。  
梅婆ちゃんも子供達も梅雨がとっても大好きだ。

[#twnovel](#)

## 好き嫌い

---

好き嫌いはいけません。

この世は素敵な事だらけ。

好きと嫌いに拘ってたら綺麗な素敵を逃しちゃう。

それはとても悲しいわ。

ママは私にそう言った。ママの言葉を私は守り続けてる。

[#twnovel](#)

彼女になって？うんいいよ。キスさせて？うんいいよ。

私は誰とも付き合うの。

食はず嫌いはいけないわ。

## 創作

---

創作の仕方？創作なんて簡単よ。

単語を思い浮かべたら、あとは勝手に手が動く。

考えないわ。感じるの。

### [#twnovel](#)

「単語きたぞ」

「この単語で頼む」

「ひどい単語だ」

「できた！」

「手を動かせー」

「つーとー」

「ああっ誤字」

「あのさ、お前どうやって話考えるの？」

「創作の仕方？創...」

## 風鈴

---

その風鈴は錆びていた。

けれどいつもの夏と同じく窓辺に吊すお爺さん。

最近視力が落ちているから錆に気づけてないのかも。

その風鈴は大切だよ。死んだお婆さんの形見だものね。

風が吹いてもならない風鈴。

悲しむ顔など見たくなくて、風が吹く度「にゃあ」と鳴いては誤魔化す俺。

[#twnovel](#)

## 最後の俺

---

とうとう俺で最後の一人。

壮絶に散った仲間達を思う。こんな不毛な戦いもうやめてしまいたい。

はげんだところで何になる？

この苦しみから抜けだしたい。けれど...

希望たる俺が諦めるわけにはいかないだろ？

[#twnovel](#)

「とうとうツルッぱげだ」「うるさい。あと一本ある」

俺は彼の最後の希望。

## 蝸牛

---

蝸牛は紫陽花に色を塗る。

青い花になるように。ピンクの花になるように。

彼らはそれを誇りに思う。

こんなに綺麗にできるのならば、他のものにも塗れないかしら。

例えばもっと広い場所。例えば空とか宇宙とか。

蝸牛達は空を目指す。

並んで歩いて虹を作るが、まだ空までは届かない。

[#twnovel](#)

「僕には妻が」知ってる。

「こんなこといけない」だからいいの。

彼の背に爪を立てる。貴方はあの人によく似てる。

#twnvday

家庭は壊したくない、彼はそう言って私を捨てた。

許せなかった。

彼の息子そのまた息子が結婚するのを待ち誘惑した。

孫子の代まで続けた呪い。

さてとひ孫はどうしよう？

子供が生まれてから初めての实家。

あの頃と変わらない僕の部屋。何一つ。

「お帰りなさい」懐かしい声、誰もいない。

「見えないんだ」うんごめんね。

「大人はどう？」大変だよ。

「頑張ってるね」

それきり声は聞こえない。

息子が宙を見て笑う。

きっと僕と同じように、君は彼の初めての友達。

#twnvday

玉の輿に乗りたかった。

だから赤いリボンをつけて人の少女を擬えた。

確かにモテはするけど玉の輿にはほど遠い。

やっぱり色気が必要かしら。

元の姿で考えてたら、なんとうっかり拾われた。

ビックリするほど大きな屋敷。

猫娘より猫の方が素敵な暮らしが出来るかも？

[#twnvday](#) [#twnovel](#)

俺、人の形をしてる。

触れられるし話もできるし顔も普通。

食事と排泄に無縁な以外はまるで人と同じだ。

妖怪№19801のれっきとした妖怪なんだけど、恐れられない妖怪って妖怪としてどうなのか。

膝を抱えて悩む俺。

「うお、ビックリした人かと思った」

脅えてくれるのは仲間ばかり。

[#twnvday](#)

暑いよ暑いよ。

なので [#twnvday](#) を眺めあやかし達に涼を求める。

暑さは怖さを磨き、怖さは涼を呼ぶ。

お陰で少し冷えたかも。

それにしても今月、普段みないアイコン多いね。

自分の好きなタグが賑わうの凄く嬉しい。

いいお話多いしふぁぼっちゃお。

翌朝、昨日のお気に入り達は全て消えていた。

# 道

---

もう長いことこの道を歩いてる。

道を照らす今にも消えそうな電灯は、群がる羽虫の身を焼いた。

一体どこまで続く道か。続く、そもそも続くのか。

何故続くなど、無邪気に信じていたのだろう。

一本道で迷子になる。

道を歩きながら道を見失なった僕は、

慣れたこの道を踏み外した。

[#twnovel](#)

## 偽物雨

---

地球は雨に見捨てられた。

教科書的なあの循環はとうの昔に滅びたらしい。

ならば今降るこれは何だ。

偽の雨を解き明かそうと、研究者達は躍起になる。

そのうち一人が傘をさした。

とんとんとん。規則正しいその雨音を信号として解読する。

「イチリットルタッタノ20エン」押し売りか。

[#twnovel](#)

## きみをみてる

---

いつもあんたばっか見てるわけじゃないんだから。  
そう言ってあの子はそっぽを向いた。  
可愛いけれど心配だ。僕より大きな愛などない。  
傷つかないかと案じていたらあの子すっかりしぼんでる。  
こっちむいて。今更無理よ。いつも君を見ていたよ。  
振り向いた君は向日葵。大きな愛をあげる。

[#twnovel](#)

## おたまじゃくし

---

おたまじゃくしは考えた。

頭の上をすいすい泳ぐ、この大きいのがお母さん。

大きくなったらあれになる。すいすい泳ぐ合鴨は、おたまじゃくしを従える。

ふと合鴨が泳ぎを止めた。ふとおたまじゃくしが泳ぎを止めた。

パクッ。お母さんって僕を食べるもののこと？

胃の中で僕はかんがえる。

[#twnovel](#)

あめふらしあめふらす

---

水底のあめふらし水面を見上げる。

美しく光るその天井。

もっと近くへ。

やがて二つの円らな瞳がぬっと水面を通り抜けた。

驚いた。境界線で変わる世界。

水底の感動を分けてあげたい。

地上が水に沈むよう、沈んだ世界で人が水面を見上げられるよう。

今日も祈る。

どうか雨が降るように。

[#twnovel](#)

## 薔薇色

---

薔薇色の未来を。

人々の理想をカタチにした、薔薇色の地球プロジェクト。

この世の全ては薔薇色に染まる。

服も建物も水も空も。

喜びと成功の薔薇色の世界。

美しく咲き乱れる、薔薇の花道を歩いていこう。

足元に横たわる無数の屍。

薔薇色に染まったその亡骸を、糧に育った美しき花道。

[#twnovel](#)

## 逃げる

---

本は逃げていた。

あの本達と立ち並ぶ勇気も自信もない。

今日もそっと身を隠し閉館を待つ。

がっかりされるくらいなら一生読まれなくていい。

[#twnovel](#)

ねえ知ってる？迷子の本がいるんだって。

世界で一番面白いって。気になるよね。

逃げきるほどにあがるハードル。本は気づかず今日も逃げる。

## 父の日

---

パパは星になったの。最初は意味が解らなかった。

けれど私も14歳。さすがに今では解ってる。

「父の日おめでとうっておかしい？でもおめでとう」

呟く私。

そのツイートにファボがつく。

パパとはツイッターで再会した。死んだ事にされてると言ったら驚いてた。

パパは今日も星をくれる。

[#twnovel](#)

## 薬草

---

世界を救う。その志は素晴らしい。  
だからといって薬草ばかりを売りつけるのはどうなのか。  
裏技？そんなの知るものか。  
道具屋にはな、買い取り必至の義務がある。  
これじゃあな、魔王が先か俺が先か。  
だから、悪く思うなよ。

[#twnovel](#)

「ありがとう」  
主人は 上等な薬草に 毒薬を ふりかけた！

## 大きな木

---

木の葉に言葉をお書き下さい。

語りべ大樹は囁いた。

木の葉に書いた心をもとに紡いでくれる物語。

明るい言葉を並びたて、望むは優しい物語。

花が咲いて実がなった。その実を一つ食べてみる。

種無し果実。ひたすら甘い物語。

けれど何だか物足りない。

私は葉っぱに暗い言葉も書き足した。

[#twnovel](#)

危なかった。どうにか生き延びたがここには水もない。

俺はこのまま死ぬ運命かって弱気になんな。

いつもギリギリで生きてきたろ。

研ぎ澄ませろ。生きる道はどこにある。

あれか。籠に乗り移りピッと通過できれば。

[#twnovel](#)

198円です。

レジを通過した俺はご家庭で焼き魚となりバッドエンド。

「あかちゃんは どうして可愛い の？」

コウノトリが尋ねた。

「可愛くないと愛されないから」

神様は答える。

「あんなに泣かないようにすればもっと愛されるんじゃない？」

そしたら虐められたり捨てられたりしないのに。

「出来るものならそうしてるさ」

神様は器しか作れない。

[#twnovel](#)

## 執事

---

僕に小さい執事がついた。

「雑事はお任せを」「それは私が」「ご主人様は価値ある事を」

呼吸以外することがない。

価値あることって何？

「恋や学問でございますか」「執事彼女いる？」「私のことは」「恋の勉強」「お、おりません

」「お茶にしようか」

今日の紅茶はいつもより美味しい。

[#twnovel](#)

## じゃじゃ馬ならし

---

台風と目があつた。

美しく澄んだ青い目をしている。

どうしたお嬢ちゃん酷い荒れようだな。話してみろ楽になるぜ。

五月蠅いわね。

そう言うなって。俺が全部受け止めてやるよ。

本当？

本当さ。

実は。

[#twnovel](#)

「昨日行方不明になった男性一名が今朝発見されました」

とんだじゃじゃ馬だったぜ。

## コロッケ

---

今日はコロッケよ。

母がコロッケを揚げると台風がくる。

台風だから揚げるのか揚げるから台風なのか。

その辺難しいけれど、夏しかコロッケを揚げない母。

そういえば死んだ父がコロッケ好きだった。

そういえば父が死んだのは台風の前だった。

仏前にあがるコロッケはとても美味しそうだ。

[#twnovel](#)

## たいふういっか

---

台風は通り過ぎ、うってかわって今朝は清々しい青空。

「先ほどは家内が失礼致しました」

青空は微笑む。浮かんだ雲たちはぴょんぴょん跳ねて

「ママがごめんねーママがごめんねー」

可愛く愛想を振りまいた。

つまりだ。これが俗に言う、台風いっか。

僕はぽかんと口を開ける。

ま、いっか。

[#twnovel](#)

## 図書館

---

本を探すふりで君を探す。  
僕に不似合いな「狩猟」書棚の陰から、君を見つめてる。  
ふと目があう。背を向ける君。  
どんな本を見ていたの？  
君のいた書棚へ向かうと、君に不似合いな「軍事」書棚。  
もしかして君が見てたのは。  
君を追う。  
僕がかりたいのも君なのです。

[#twnvcon](#) [#twnovel](#)

君は迷いもせず絵本の書棚へ走っていく。  
走っちゃいけないよ、なんて言いながら追いかける僕。  
見覚えのある本達。ここは変わらないな。  
よんで、と君が一冊の本を持ってきた。  
この本は。  
膝の上で読み聞かせた最後の頁。  
著者近影にかかれた髭は、あの日の僕の作品。

[#twnvcon](#) [#twnovel](#)

この図書館には出口がない。  
沢山の人が入っていくのに出て行く人がまるでない。  
入ってみれば普通の図書館、いや普通じゃない。  
武器屋、防具屋、道具屋。  
準備を整えると本の中へと消えていく。  
「どの物語がお好みですか？」  
聖書とか、波瀾万丈で飽きないかな。

[#twnovel](#) [#twnvcon](#)

## ここは魔王の城

---

魔王は囁く。

「お前に世界の半分をやろう」

「そんなものいらん」

「では一体何を望む？」

苛立つ勇者。

「俺が欲しいものが解らないか」

沈黙。そして

「俺が欲しいのはお前だ」

魔王は笑う。

「バカだな。世界の半分をやるとっていうのは、つまりそういうことだよ」

二人は幸せに暮らしました。

[#twnovel](#)

## 隠れ家カフェ

---

隠れ家カフェにはお客はこない。

上手に隠れているからだ。彼は思う。

最近の奴らはけしからん。人気の隠れ家カフェ？嘆かわしい。

見つかるようでは隠れ家の名折れ。奴らには孤独と戦う覚悟がない。

隠れ家カフェは隠れ続ける。

飲まれることないどこより美味しい珈琲の香りを閉じこめて。

[#twnovel](#)

## 中の人

---

中の方は今夜旅立つ。

子供の空想の友達としてぬいぐるみに入り込む中の人。

この数年間を振り返る。

初めての友達が俺だった。人参嫌いなのに俺が好きって言ったら食べたよな。夜は未だに抱っこして...

「元気でな」

ぬいぐるみを抱く友達に呟く。

[#twnovel](#)

おはよ、返事がない。

ありがとばいばい。

## 親子

---

憧れていた。だって品数増えるし値段も上がる。

それって女子力アップ、みたいな。

牛もカツも天ぷらも。みんな簡単にできているから私もできると信じてた。

なのにねえ、どうして？私は定食になれないの？

親子丼は嘆く。

女子力はモテに直結しないよ、僕の虚しい慰めは泣き声に消えた。

[#twnovel](#)

## 紙の本

---

紙の本は困っていた。

電子書籍の普及で本屋の売上げが落ちたのだ。

大丈夫だよ。ご主人は言う。けれど。

「今こそ立ち上がる時」「我らの知恵を結集しよう」

### [#twnovel](#)

本達は本達を読み漁る。

生き残る糸口を掴むのだ。

その様を見ようと人が集まる。

見守る人々の目を真剣な本達は気づかない。

## 迷える子羊

---

羊が一匹羊が二匹。羊が、おいどうした。  
三匹目が柵の前で立ちつくす。  
飛ぶべきか飛ばざるべきか。迷う羊。  
そうかこれが噂の迷える子羊か。  
飛ぶべきだ。僕は愛の手を差し伸べる。  
子羊は僕を一瞥した。  
誰も僕に命令するな。  
子羊の決断を待つ俺は、退屈に飽きて眠りに落ちた。

[#twnovel](#)

## 冷やし中華はじめました

---

いらっしゃい。あらすごい汗。最近暑いですものね。  
それなら冷やし中華オススメですよ。有り難うございます。  
あなた、冷やし中華一つ。

[#twnovel](#) [#百](#)

お客さん注文は？したって何を。冷やし中華？  
最近それ頼む人多いけどうちまだでさ。  
秋に妻が死んでから時間止まっちゃって。  
始めないとね。

## 座敷童

---

僕の家には座敷童がいる。

その子は僕と一緒に育ち、そして一緒に大人になった。

彼女が座敷童か否か、そんなの僕には関係なくて、僕ら二人恋に落ちる。

それは祖母の怒りに触れた。

「その子は双子の妹だ」

証される真実。

座敷童は双子を身籠もる。双子は不吉。座敷童がまた産まれる。

[#twnovel](#)

デートのリハしたいって僕を連れてお洒落カフェ。

緊張の面持ちで慣れない店に戸惑う君。

普段はこんなところ来ないよね。

君の本気を見せつけられて泣きたくなる。

いつもの店でいいじゃん。

バカ俺とお前の関係と違うんだよ。

それならきっとその恋はうまくいかない。

[#twblnovel](#) [#twnovel](#)

まだ

---

私のツイートと日常が連動する。

饅頭屋なう。潰れる。

彼とデート☆失恋。

この歌手いい。麻葉騒動。

まさにデスツイート。

迂闊な事呟けない。ROM専してたらリプがきた。

「まだ？」誰これ。

名前クリック。存在しない。

「まだ？」で埋め尽くされ続けるTL。

返信の誘惑を堪える。

[#twonovel](#) [#百](#)

## さびつく

---

雨が続くとなんだか心が錆び付いたみたい。

感じない心は体を動かすこともない。

だるい。もしかしてこれが鬱なのかな。

### [#twnovel](#)

この時期多いんです。

錆び付いたのは心じゃなくて体なんですけど気づかないんですね。

最近のロボットは高性能ですから。

梅雨時期の心療内科には錆取りが欠かせない。

# 卵

---

僕ら毎日卵を産む。

たくさん産んだりたまに産んだり。

朝型。深夜型。猫型。犬型。

小さい卵。大きい卵。

恋の、密室の、機械の卵。

1つ1つは違う卵。ベルトコンベアに運ばれて、1つの流れを作り出す。

卵の全てに「[#twonovel](#)」の文字。

卵を愛してやまない貴方、どうか美味しく召し上がれ。

## 猫柄

---

世界中に動物柄が溢れてるのに猫柄ないのはどういうことじゃ。

猫柄ってなんだ。猫はたくさんいるけれど。

トラはダメだしだったら三毛？そんなのずるい。

じゃあ大好きなマタタビ柄？僕はカツオが。

いやいやじゃあじゃあ。

猫柄は永遠に明日へお預け。

[#twCATnovel](#) [#twnovel](#)

## 雨降りの月曜日

---

今日は雨降り月曜日。憂鬱なのも仕方ない。  
昨夜の帰り雨に降られて喉が痛いとか、  
帰宅後泣いて目が腫れてるとか、  
そんなのきっと些細な理由。  
ああ、まるで檻に閉じこめられたみたいだね。  
ここからどこへも行きたくないのは、  
君にふられたせいではなくて、  
雨に降られた月曜のせい。

[#twnovel](#)

## 遊園地さん

---

「遊園地さんって知ってる？男を乗り物に誘って遠くに連れてく女妖怪」

「貴方みたい」

「本当だね。この話には続きがあって、女は観覧車に男を誘って頂上で言うんだ」  
僕らのゴンドラは丁度てっぺん。

「「ずっと一緒にいてくれる？」」

重なる言葉。

不気味に笑う女。

地上は、遠い。

[#twnovel](#) [#百](#)

## 顧問弁護士

---

僕に顧問弁護士がついた。

「貴方を守ります」

僕の胸ポケットに入り込み心臓に耳を押し当てる。

僕の事情はこれで大体解るらしい。

「うんうんそうなの大変ね」

花卉のような唇が紡ぐアドバイス。

「だけど私は貴方の味方よ」

どんな難題も、その一言で九割方解決してしまう優秀すぎる彼女。

[#twnovel](#)

## プール

---

よーいドン。一斉に飛び込んだプールの中。

隣がない、と思ったら人魚姫にプール底で看病されてる。脱落か。

反対隣は亀の背に乗せられてるぞ。時間のロスだな。

ドクン。何だこれ。ドクン。ああ子宮にいた頃を思いだ...

[#twnovel](#)

今年も完泳者ゼロですね。

さすがわが校伝統「24m幻想遠泳」。

## 愛煙家

---

愛煙家の僕は煙を愛している。

煙草？そんな過去の遺物さ。とっくに絶滅しかけてる。

僕の愛する愛しい煙。

話術を磨いて、相手を定めて、言葉をくゆらせ、「煙に巻く」。

多少命を縮める所も、結構嫌われがちなのも、中毒性があるってところも過去の遺物と一緒にだね。

僕は煙を愛してる。

[#twonovel](#)

## 名前

---

CATSの台詞にあるでしょう。

「猫には3つの名前がある」

だから3つはフツーのことよ。

私くらいの女になると、多分15は名前があるの。

貴方はいくつの名前があるの？

あら5つ？

そう、これからね。

私がいい人紹介するわ。

名前とご飯をくれる人。

[#twCATnovel](#) [#twnovel](#)

久しぶりに彼女と会う。

一緒にいた頃は思わなかった愛しさが沸く。

それは彼女も同じよう嬉しそうに笑った。

今度いつ会えるのかわからない僕ら。

僕らは言葉を尽くし心を尽くし、結果互いを求め合った。

[#twnovel](#)

「人間の貴重な交尾シーンの撮影に成功しました」

人間の保護に宇宙人は必死だ。

## 夢舞台

---

この建物、前にも出てきた。

この恋人、前は弟だった。

夢の世界は面白い。繰り返し現れる物や人。馴染みの景色に癒される。

私の記憶より創られし世界。私は世界の創造主。

### [#twnovel](#)

「大道具！建物使い回すな」

「人手足りないんです。監督だって役者使い回して」

「うるさい。予算不足なんだ！」

## ロンサム

---

誇り高い一族も今じゃ俺だけ。  
俺の住むこの島に、人間は土足で踏み込んだ。  
俺様を見つけると、食事と名前を押しつける。  
どこぞの亀に擬えて、ロンサムジジってセンスねえ。  
大体俺は寂しくない。  
1匹なのに何でって？  
言わせんにゃ。お前らが島に来たからにゃ。

[#twnovel](#) [#twCATnovel](#)

## 雨宿り

---

にわか雨から逃げ込んだバス停には、先客がいた。

「私のせいですみません」

ずぶ濡れの僕を見て謝る彼女。聞けば雨女らしい。

「バスがくればここもきっと晴れますよ」

可愛いくて面白い彼女。なんてラッキー雨宿り。

あっという間にバスが来た。

[#書き出し](#)

彼女を乗せて走り去るバス。

わっ、雨あがった！

## 落とし物係

---

落とし物係は寡黙な男。今日も黙々仕事する。

目の前に発見落とし物候補。

箱の中身は、にゃあにゃあにゃあ。

自分が拾えば落とし物で、拾わなければ捨て猫だ。

捨てられるってどういう気持ち？

[#twnovel](#)

「一緒においで」彼の後ろに子猫が続く。

「こら舐めるな」いつもよりお喋りな今日の彼。

## 酸っぱい葡萄

---

あの葡萄はきっと酸っぱい。

葡萄に背を向け狐は丘を駆け下りた。

そして再び仲間を連れて、丘を一気に駆け上る。

狐の上に狐。狐の上に狐。

月明かりに照らされた狐の塔。

やがて葡萄に手が届く。

[#twnovel](#)

数ヶ月後。

「酸いも甘いもよい葡萄」

狐印ワインは本日解禁。

美味しいワインを召し上がれ。

あか

---

白い花ぼとり落ちた。

あの方はおらぬか。裾に泥が跳ねる。

あの方はおらぬか。裾に血が跳ねる。

紅に染まる白い裾。

足元には今宵祝言をあげる男女と血の様に赤い、赤い花。

[#百](#) [#twnovel](#)

女は転た寝から醒めた。

嫌な夢じゃ。

あの方も今宵祝言を...

おや、何と美しき赤い花。紅い唇で口付ける。

8月31日

---

「俺30頁」「僕絵日記全部」「俺は...」

宿題終わらない自慢を始める子供達。

「お前は?」「俺は終わったぜ」

静まる。

「じゃ、くんなよ」「帰れ帰れ」「てかお前誰?」

子供達は顔を見合わせた。

お前の友達?違う。僕も。

気がつくとも知らぬ友人は消えている、8月31日の怪。

[#百](#) [#twnovel](#)

## ルームメイト

---

俗に言う「ルームメイト」付き物件です。  
格安物件だった。洋風平屋で猫足バスタブ付き。  
「いかがですか？」「猫足たまらないです」  
「お好きですか？」「ええ」  
「私も肉球好きなんです」「？」

[#twCATnovel](#) [#twnovel](#)

新しい暮らしが始まる。  
にゃあ。ご飯か。  
ルームメイトは猫だった。

## 運命を奏でる

---

BGM係は三人組。

僕の人生にあわせて音を奏でる。

今日は仕事の正念場。このプレゼンで運命が決まる。

勇壮なメロディーにノリノリの僕。

さあ、あともう一押し。

[#twnovel](#)

急に音楽が悲哀に満ちた。

止まるBGM。

係はこづきあい、先程までの勇壮な音楽を再び奏でる。

プレゼンの運命やいかに。

## 夏用クリームソーダ

---

ご注文は？夏用クリームソーダひとつ。

[#twnovel](#)

「待った？」

艶っぽい声がグラスの中から聞こえる。

ソーダの海を泳ぐビキニの女が手を振った。

飲もうとする俺を制し、アイスの山から飛び込み、チェリーをボールに遊ぶ。

許可が出た頃には、溶けたアイスに抜けた炭酸。

夏に捧げるクリームソーダ。

## 風向き

---

昔はさ、俺がくると嬉しそうにこっち向いてさ。  
なのに最近、背中向けたまんまだな。  
寂しいよ。  
月日ってのは残酷だ。お前をこうも変えるのか。  
錆ついてしまったお前の心、俺の涙じゃ動かない。

[#twnovel](#)

錆び付いたのは身体です。  
海辺の街の風見鶏は最近いつも同じ向き。  
ああまた潮風。錆びる...

## 蛙の子は蛙

---

蛙の子は蛙。

言葉の意味に悲しくなって、蛙は鷹を産みました。

蛙の子は鷹。蛙が鷹を産む。

可愛いわが子を愛しく見つめ、母蛙はふと思います。

例えこの子が何者だって今と変わらず愛せたわ。

私は何を憂っていたの？それが全てのはずなのに。

悟る蛙を鷹は啜えて空へと消えていきました。

[#twnovel](#)

## 匂い

---

すれ違った男は貴方と同じ匂いがした。

大嫌いだった煙草の匂いが今じゃ懐かしい。

誘われるようについてく。振り向かないで。私に暫しの夢をみせて。

願いは、叶わない。

「おやあ？かわいこちゃん。おいで」

突然私を抱く汚らわしい腕。

失礼だにゃ。猫ぱーんち。

[#twCATnovel](#) [#twnovel](#)

## 自販機

---

自販機のアかりがチカチカする。

ボタンを押すと、ピピピ。

今時珍しい当たり付きだ。

ピ。111。

そりゃ7なんか揃わな...ピロピロ。音楽が流れる。

そして直後に、ワン、頭から。ワン、足元から。ワン、取り出し口から。

3匹の犬。

これは当たり？

どうしよう。うち、アパートなんだけど。

[#twnovel](#)

## 落ちる

---

これ、落としましたよ。

女に呼び止められた。落としたっていうかポイ捨てだけど。

「貴方が落としたのは金の缶ですか？銀の缶ですか？」

何こいつ。

「いや黒い缶」

答えると女は笑った。

「正直ね。全部あげる。」

俺に空き缶を3つ押しつけて女は去った。

お前、空き缶処分したかっただけだろ。

[#書き出し](#)

## 憎しみの形

---

僕の憎しみを形にしたら、猫型だった。  
可愛かったので抱きしめて撫でたら、激しく引っ掻かれた。  
落ち込む俺。  
そういえば君はこんな風だった。  
僕の憎しみが、君への愛の転化だったと思い知る。  
もう一度撫でる。ペロリ傷を舐める猫。  
君はこんな風だった。こんな。  
僕は猫を抱きしめて泣く。

[#書き出し](#)

## 愛の缶詰

---

缶詰めのお愛が2個入りで348円で売っていたから試しに買った。

酒の肴に丁度いい。

パカッと開けると中から可愛い女の子。

「愛♥」くるくる踊る姿に酒も進む。

10分程で消失。こんなこともあるかと！もう一缶！

パカッ。

「愛♥」くるくる踊るイケメン。

これはしょっぱくて酒が進む。

[#書き出し](#)

## ゆで卵

---

僕は冷蔵庫の前で一人、手に持ったゆで卵を見つめて立っていた。  
開けたばかりの生卵パック。そこから出てきたゆで卵。これは密室ゆで卵事件。

### [#書き出し](#)

「私がやりました」自首する君。  
「卵かけご飯ばかりで手料理食べてくれないから」成る程。ミステリーと思いきや恋愛物。  
ね、今日のおかず何かな？

## 野良猫

---

見知らぬ野良猫が僕を出迎えた。

にゃー。甘い声で誘いやがる。ので、手を出した。子供が出来た。

ご主人は女をシロと名付け飼ってくれた。

### [#書き出し](#)

「やっぱ子供作るなら飼い猫。ご飯大事。でもここのご飯飽きてきたから新しい男探さなきゃ」

シロは美食家で10の名前を持つと知ったのは最近の事だ。

## 歌姫

---

でしたら私は秘密の歌姫になりましょう。  
歌姫はそう告げて、僕のiPodに入りこんだ。  
iPodに入った曲は、彼女の声で再生される。  
どんな曲も名曲になる。僕の耳にはいつもイヤホン。

[#書き出し](#)

歌姫は笑む。  
私は魔女。人間の耳を塞いで、世界がダメになるのを待つ。  
音楽で世界を支配するわ。

## JAP

---

Japan Aichi People1、通称JAP1号と呼ばれる彼女はJシリーズの中でもJKP1号と並び特に人気がございます。

名古屋嬢を模した外見、名古屋巻でブランド志向。

しかしながら名古屋人独特の食への探求心も兼ね備えております。

いかがです？小倉トースト上手ですよ？

[#書き出し](#)

## 煙草

---

煙草が好きなのわけではない。  
けれども無くてはならないような気がするのだ。  
貴方が好きなのわけではない。  
けれども無くてはならないような気がするのだ。  
手に入れた憧れは、やがて静かに姿を変える。  
煙草はやめた。飽きちゃった。  
そして貴方。貴方が好きなの。無くてはならないから側にいて。

[#書き出し](#)

## 魔王の倒し方

---

実に斬新な魔王の倒し方だ。

勇者が示す方法に耳を傾ける。

「王様が旅立つのです」余が？

「王様が魔王の前へ出向き、そしてこう言います」どのように？

「勇敢なる勇者の血を引くものよ！敵は魔王じゃ！倒して参れ！」へ？

「魔王が勇者になるか自殺するかそれとも…」それとも？

「行け王様！」

[#書き出し](#)

## 歩く

---

俺は歩いていた、散歩と言うわけでもなく、ましてや目的地があるわけでも無かった。

俺は世界を憂いている。

汚れた空気にむせ、全てを覆いつくすアスファルトが素足に熱い。

何かに突き動かされる。俺は行かなければ。

### [#書き出し](#)

「お爺ちゃん！」

女が俺の肩を掴んだ。

「徘徊やめてご飯にしよ」

うむ。

次へ

---

「次へ」を押す手をためらった。  
次って何だ。今がこんなに幸せなのに。  
次って何だ。これ以上の幸せあるわけがない。  
次への後の続き5頁。そんなにあるなら、何が起きても不思議じゃない。  
ハッピーエンドの約束もない。  
進める理由があるものか。  
5頁前。  
僕はここで、めでたしめでたし。

[#書き出し](#)

## ありふれた恋の物語

---

何度も繰り返されたありふれた恋の物語。

でもそんなじゃ飽きちゃうでしょ？

新しい物語を始めましょう。

### [#書き出し](#)

お姫様は旅に出た。

白鳥になり、毒林檎を食べ、硝子の靴で踊り、数年眠る。

苦難乗り越え集めた王子。

彼らを並べて値踏みする。

暫し悩んで、「不合格」。

姫は一生独身で過ごしました。

## 焼きそばパン

---

たかが焼きそばパンと言うんじゃねえ。

うちのは特別だ。

どこか誇らしげに親父は言う。

そう明らかに違う。

このパンには親父に関する重要な秘密が秘められている。

「親父さん長崎生まれでしょ」

「何で解った」

「この焼きそば、ちゃんぽん麺に金蝶ソースだ」

「いつかパンをカステラに」

やめて。

[#書き出し](#)

## 成仏

---

また今日も、成仏できないまま夜を終えた。

キャバ嬢しながら成仏を待つ私。

うらめしい事もなくて暇にしてたらスカウトされた。

ここで同じ境遇の子達と働いてる。

お客の愚痴を聞いてると、こんな絶望の世界から救われた自分に安堵するの。

世界への希望は消え失せた。

さ、明日こそ成仏成仏。

[#書き出し](#)

## 飴

---

一口食べればたちまち恋に落ちてしまう飴だよ。  
それを私に差し出すなんて、君は私が好きなのね。  
君ならいいわ。軽い気持ちで飴を舐めた。

### [#書き出し](#)

切ない愛しい。恋に落ちた。けどこの恋相手がいない。君でもない。  
激しく感じる喪失感。  
恋と失恋。両方共の切なさに、止まらぬ涙を拭う君。

## 吐き出す

---

虚しさを吐き出した僕を気遣い、君は僕の背をさする。

水飲む？なんて、酔っぱらいじゃないから。

何でこんなに優しいのか聞いたら「覚えがあるから」なんて笑う。

いやいやだって君は明るくて可愛くて。

改めて君を見る。

虚しさが消えた場所に新しい気持ちを迎えたい。

君を好きになっていい？

[#書き出し](#)

## 解けた魔法汚れた手

---

解けたのは魔法で、残るのは汚れた手。

違う未来を望んだ私は貴方にナイフを突き立てる。

温かな血に、足が人魚の尾に戻る。

ねえ王子様、鈍感な罪ね。綺麗な心で身を引く事に、私は少し疲れたの。

貴方を誰にも渡さない。そんな未来が見たかった。

解けた魔法は何だった？

赤い海を人魚は泳ぐ。

[#書き出し](#)

## ふりかけかける

---

あいつのふりかけへのこだわりは尋常じゃなかった。

どんな物へもふりかけかける。

ご飯もパンも片想いも怒りも。

そうすれば美味しく食べられるって。

昨日は失恋にのりたまかけて、辛いもんには甘いのが合うと笑ってた。

ふりかけがあれば飲み込めない物はない。

あいつの笑顔が少し悲しい。

[#書き出し](#)

## ジッパー

---

そう言って僕はジッパーを下げた。

君のこと好きなんだって。

僕らは遊園地のぬいぐるみ。パンダを脱いで、うさぎの君を抱きしめる。

慌てる君。逃げないで。

「こらっ」

声に驚き、僕はうさぎのジッパーを下げた。

出てきたのは先輩。間違えちゃった。

「俺で、いいのか？」

よくないです。

[#書き出し](#)

## かこめ

---

いつの間にか私は囲まれていた。

かごめかごめ。手を繋ぎ回り出す。

後ろの正面だーれ？

知らない子ばかりで答えられずにいると再び始まった。

これはもしや集団妖怪かごめかごめ？

それならば。

後ろの正面だーれ？

「私の好きな人」「ば、ばかっ!!!」

前に立てない恥ずかしがり屋は消えていく。

[#書き出し](#)

## 日向ぼっこ

---

こんな陽射しで日向ぼっこしたら、死ぬよね。しかも3日連続。

悪霊退散宜しく塩で清められ暗い所に監禁されて泣き濡れた。

やっと解放と思いきやこの地獄の日向ぼっこ。

終われば今度は軟禁らしい。

こんなだけで俺、腐らないよ。腐ったら負けだと思うんだ。

[#書き出し](#)

「梅干し腐らないの不思議だよね」

## 電池式

---

ピンポン、お知らせします。

人類はこの度の一斉アップデートにより、電池残量の表示が可能になりました。

驚く人々。

「電池式だったの?」「俺達ロボ?」「人類って作り物?」「いつの間に?」

寿命がわかるという恐怖に至るまではもう少し時間がかかりそうな、読み込み遅い人類達。

[#書き出し](#)

## 宝棺

---

鍵付きの宝箱を拾った、と思ったのにそれは実は棺だった。  
つまり中にはご遺体が横たわって然るべきで状態だって解らない。  
けれど鍵穴があって鍵がある。この誘惑に誰が勝てる？  
鍵を、開けた。

[#書き出し](#)

驚いた、君だ。  
口づけすると目を覚ます。  
これから始まる恋物語入りなんてこれはやっぱり宝箱だ。

## 古道具

---

古道具屋で父を見つけた。

僕に気づくと手を挙げる。少し痩せたみたいだな。

最近の話を少しする。

「母さん元気か？」ぼつり聞く父。

「元気だよ」答える僕。

そうかそうかと頷く父。

「また会いに来るね」

そう言う僕に父は値札を指さした。

最終処分80%オフ。

手を振る父の顔が忘れられない。

[#書き出し](#)

## コールセンター

---

「修理・返品のご相談は弊社コールセンターまで」

恋人がそれしか言わなくなって、数日経った。それはどこ。

携帯に電話してみると「コールセンターです」正解。

「恋人が壊れて」「壊れたのは恋人ですか？ 貴方や二人の関係じゃありませんか？」

俺、何かしたんだな。

今日は花を買って帰ろう。

[#書き出し](#)

## 溢れる

---

本のページの間から溢れそうになっている文字達。

作者さん詰め込み過ぎ。わ、溢れ始めた。

足りない文字で伝えられるの？

それにね、行間で感じられる真実だってあると思う。

[#書き出し](#)

よく言うよ、彼が笑う。

君の [#twonovel](#) も140字ぴったりが多いよね。

確かにね。

言いたい事が多すぎて。

## 月の夜

---

月が綺麗な夜は、仕事をしたくなる。

この店からは月が素敵に見えるから。

「ママって和風美人だし月に帰って行きそうだよね」

「お客さんかぐや姫の続きをご存じ？」

「知らない」

「月に帰ったかぐや姫は退屈で地上に戻りました。そうして店を始めたのです」

どうぞ。うさぎのバーテンに驚く客。

[#書き出し](#)

## 婚約指輪

---

星屑よりも輝く石を転がしてあなたは笑う。

欲しい？掌にはダイヤ輝く婚約指輪。

欲しい！食いついて後悔した。

「そんな俺と結婚したいか」

愛してるって言わない彼。求婚の言葉くらい欲しかったのに。

しょぼくれる私に指輪をはめる。

「俺のもん」

何その嬉しそうな顔。

いいわ、結婚してあげる。

[#書き出し](#)

## あの子のお腹

---

あの子のお腹の中には、僕の作ったケーキが入ってる。

美しいケーキは僕の子供。それってつまりあの子のお腹に僕の子供がいるってことだよな。

胃と子宮の違い？そんな些細なこと気にしないよ。

あの子のお腹に僕の子がいる。

つまり僕とあの子は夫婦。幸せだな。

[#書き出し](#)

え、何？病院？警察？なんで？

## ねこまた

---

僕は猫だった。名前はもう忘れた。僕がまだ本当の猫だったのは、もう百年以上前の事だ。

見えないはずの僕の背を、優しく撫でる君の指。

気持ちの良さに「にゃあ」とか鳴くけど久々すぎてこそばゆい。

君は僕に名前をくれた。一人じゃないよと約束をくれた。

僕は猫。百年ぶりの君だけの猫。

[#書き出し](#)

## うつくし

---

妖怪「うつくし」は鏡を覗いた人を三割り増しで美人に映す。

無論それは偽物の美。

けれど「私が美しいと思えればいい」そんな自己愛風潮とマッチし、乱獲され、次々鏡に閉じこめられた。

囚われのうつくしは溜息をつく。

みせかけの美を得た所で、心は「みにくさ」に取り憑かれるだけなのに。

[#書き出し](#)

## 映画館

---

映写機の音と光が止まったとき、人々も動きを止めた。  
時計の針も何もかもが動かなくなった。それはまさに世界の終わり。  
神様はポップコーンのカップをくしゃりと潰す。  
面白かった。人間の愚かさがたまらなかった。  
そして立ち上がる。  
面白かったけど続編はないな。そうして映画館を後にした。

[#書き出し](#)

## 克服

---

人類が飢えと渴きを克服してから、60年が経った。  
生活保護問題を解決する為の画期的な対策だった。  
かくして生活保護終了。  
免除されてた負担は全て、皆と変わらず義務となる。  
増える借金。文化的ってなんだっけ。  
未来の見えない絶望に、自殺率だけ伸びていく。  
克服すべきは、何だったか。

[#書き出し](#)

## 夏の扉

---

「夏になったら何がしたい？」って聞いたら、  
線香花火に向日葵迷路、金魚すくいに肝試し。  
儂げな君はふわりと笑って、けど私には無理だから。  
白い着物の袖口でそっと目頭押さえてた。  
大丈夫。どうにかするよ僕が夏へ連れて行く。

### [#書き出し](#)

僕は大きな冷凍庫の中に雪女を隠してる。  
夏までもう一息。

## 好きの反対

---

「好き」の反対語は「嫌い」じゃなく「無関心」だと聞いて、必死になって考えないようにした。 無駄だった。

仕方ないので妥協して嫌いになることに決めた。

嫌いなところ。私に無関心な所。 やだ、なんか泣けてきた。

つまりそういうことなんだ。私はいつ、この恋に無関心になれるかしら。

[#書き出し](#)

ぱ

---

ぱ～はぱんつのぱ～と彼女が歌う。

「ぱんつ、だと？」「はしたなかった？でもこういう歌なの」

「こういう歌、だと？」俺は彼女を睨み付けた。

「お前南部の人間か」「何故それを」「ドレミパソラシドの歌、我ら北部では、ぱはパンダだ」  
そして僕らは別れた。

銀河系ではいまだ南北の溝が深い。

[#書き出し](#)

## 同じ空

---

みんなが同じ空を見上げられると思うか？

見上げる空はあまりに小さい。今日の空は綺麗な青。見上げていたら塞がれた。

最近ベランダは収納式で、上階の住人が出せば下階の空は塞がれる。

乱立したビルの間。奪い合う空。

上層住まいに憧れながらも僕の足は、未だ地面についたまま。

[#書き出し](#)

## 孤独な星

---

その星は孤独だった。  
誰かにみつけて貰いたくて、一層眩しく強く光る。  
けれどみつけて貰えない。こんなに努力してるのに。  
孤独な星は溜息をつく。悲しさ故に弱まる光。

「あらこんにちは」  
すぐ隣から声がした。  
眩しすぎて貴方がいるって分からなかった。  
孤独な星に声を掛ける。  
こんにちは。

[#書き出し](#)

## 青より水色

---

青よりも水色。赤よりピンクの方が好きかも。  
確かに君にはお似合いだ。曖昧な色を好む君。  
この前キスをしてくれた。昨日は一緒に眠ったね。  
なのに君は「彼氏が欲しいな」そんな風に僕に言う。  
曖昧な君。本当は一体どんな色？  
メールが来た。  
「迎えに来て？」  
返信すらせず、僕は君の元へ急ぐ。

[#書き出し](#)

## ジュリエット

---

もう悲しい思いをするのはウンザリ。

ジュリエットは額を押さえてのけぞる。

ここは精神科。

彼女は一目惚れしたロミオと未だ出会えず結婚した今も彼を想って泣く毎日。

「夢を見せましょう」

医師が見せたのは「ロミオとジュリエット」

目覚めた彼女はこんな人生なら幸せだったのにと泣いた。

[#書き出し](#)

## たらこスパ

---

たらこスパの呪いを受けてしまった。

明太子との浮気がバレたのだ。バラしたナポリタンが憎い。

「他の子ならまだしも明太子となんて」

清純なたらこはビッチな明太子が大嫌い。

お陰で呪いは深く僕のメニューには「たらこスパ」しか書かれていない。

今日も僕はたらこスパ。

「私だけ愛してね」

[#書き出し](#)

## 歩く速度

---

紫陽花の葉の上をのろのろと歩くカタツムリの中には稀に、  
距離に合わせて歩く速度を変えられるものがある。

大きな葉の上では速く小さな葉の上では遅く。

それなら地上はどれだけ速く？期待して地に降ろす。

ツノがぐんぐん伸び、ついには見えなくなった。

距離計測中か。

動き出す瞬間を僕は待つ。

[#書き出し](#)

ばくばく

---

バクが笑う。私の夢で。

お前の夢はとても喰えない。何故なら悪夢じゃないからな。

そんなはずはない。これは悪夢だ。

あの子に振られつまらない女と結婚し子供3人。

俺がついたのはやりたくもない年収一千万のつまらない仕事。それに。

ばくっ。

喰われたのは夢じゃなく頭。

もうお前夢みんな。

[#書き出し](#)

## たわし

---

たわしかと思ったらコロッケだった。

なんてこと、よくありますよね。

折角磨きたかったのに食べるしかない。辛いですよね。

そんなあなたに「快適！コロッケ型たわし」

たわしのコロッケ化欲求をあらかじめ満すことでコロッケ化を防ぎます。

今なら2個で...

「母さんはやくこれ買って！」

[#書き出し](#)

## 嗜み

---

こんなの、産声じゃない。

生まれてきた我が子は流暢に挨拶を始めた。

「吾輩は赤ちゃんである。名前はまだない」

誕生前の備えとして胎児達はこぞって言葉を学んだ。

難しい世の中だ。親とはうまくやっていきたい。

本の暗唱など基本中の基本。

あらお隣も生まれたのね。

般若心経が聞こえる。

[#書き出し](#)

## ボタン

---

「さあ、あとはこのボタンを押すだけですよ」  
世界が救われるなら、俺が死ぬくらいなんてことない。  
ああ、だけど。躊躇っていると後ろから押された。  
ちょ、ま。俺は死んでしまった。  
確かに俺は押すつもりだった。  
けれど、無理矢理は不本意だ。  
許せない。決めた。  
俺、成仏しない。世界滅ぼす。

[#書き出し](#)

## 書き出し

---

こんな書き出しじゃ駄目だ。

もっと斬新で画期的な。

他の人が手をつけたがらないような書きにくい書き出し。

そうじゃなきゃあの人捕まらない。

なかなか創作しないけれど大好きなあの人を引っ張り出すための書き出し。

そうだ、これでどうだっ。

[#書き出し](#) を眺める。

釣れた。次の餌を考えなくちゃ。

ニヤ

---

二股なんかしないニヤ。

僕は誇り高い黒猫ニヤ。魔法の使いをする猫ニヤ。

その僕が二股？まさかまさか。

ホントの愛を求める僕は、そんなじゃ満足できないニヤ。

僕はいつも七股ニヤ。

一週間は7日ある。

今日の相手はミケちゃんニヤ。

ホントの愛を、探すのニヤ。

[#書き出し](#)

## 謎解きクラスト

---

最後の謎を君に贈ろう。この謎が解けたものに遺産を与えるー

「何これ」「変な遺書」「これだから推理好きは」「で、謎ってどこ」「ないよ」「父さんうっかり入れ忘れたんじゃない？」

「あはは、謎解決～」

### #書き出し

孫娘が庭で遺書を見つめる。太陽にかざすと文字がでた。

「時々思い出してね」

## ソーメン

---

ソーメンが流れずに、上で詰まってる。

やっぱダメだよこのタイプ。

「流しソーメンは構造的にな」

俺の田舎はぐるぐる回るソーメン流しが主流だ。

不意に忍び寄る妻の影。

「お義母様の味がいいなら帰って？」

「味じゃなくて」

「ね」

「流しソーメン素晴らしいです」

俺は黙って詰まりを解消する。

[#書き出し](#)

## 雨女

---

雨を降らせるために必要なもの、  
ここテストにでますと先生が言う。

天才肌の私。

道具なんか使わないけど何かを知るって面白い。

どれ程知識がある人よりも仕事はできると自負してる。

けれど今は資格が大事。

だからとろうと思ったの。

そう言って今回、雨女が特殊能力認定を受けました

[#書き出し](#) [#締め](#)

## シンデレラ症候群

---

私はシンデレラになりたかったわけじゃない。

硝子の靴を叩き割る。

孤独な日々に優しく救いの手を差し伸べてくれたのは貴方だけ。

恋に落ちるのは必然だった。

王子なんかに興味はないわ。ドレスも靴もいらないの。

それならお前は何を望む？

魔法使いは私に問うた。

簡単よ。どうか私を拐かして。

[#書き出し](#)

## 浦島

---

浦島太郎が浜辺へ行くと、マリオが亀を苛めていました。  
踏みつけて手足が引っ込んだところを壁に向かって蹴り飛ばす。  
明らかにいじめです。

「やめろ」振り返るマリオの横をすり抜け亀の甲羅が浦島めがけて一直線。  
うわあ。

### [#書き出し](#)

気がつくと浦島は美しい所にいました。  
竜宮城か。  
いいえ天国です。

## 昔々

---

昔々あるところにおじいさんもおばあさんもおりましたが他には何もありませんでした。

桃は流れず竹藪も光らず掘れと命じる犬もない。

時代変われば童話も変わる。

今の世の中、正直に真面目に生きてるだけでは、富も幸せも得られない。

おじいさんとおばあさんは地味に普通に暮らしました。

[#書き出し](#)

## モスキート

---

モスキート音で攻撃をする。

いいか必ず暴いてみせる。

私20代後半なの♡なんて言って、俺を騙した美魔女達。

この攻撃にも負けずに残った女がいれば、そいつは美魔女というわけだ。

お前も美魔女かお前もお前も。

最近美魔女に騙されないが、若い女も寄ってこない。

は、そうか。俺ってやつは。

[#書き出し](#)

## 晴天なり

---

アホみたいな晴天の中。俺はバカみたいに突っ立っていた。

君が結婚する。世界中が祝福してるみたいだ。

ねえ僕にキスしたよね？愛してるってどういう意味？

教会の鐘が鳴り響く。扉を開けて白いドレスの美しい君。

目が合う。「ポチ」唇が眩く。

大丈夫奪う気なんかない。どうか幸せに。

「わん」

[#書き出し](#)

## 髭剃り

---

10年付き合った髭剃りが、俺の元を離れることになった。

「元気でな」「おう」

「次は何処へ?」「...」

「手紙くれよ」「...」

「お前まさか廃棄されるつもりじゃ」

「足手まといは嫌なんだよっ」

駆け出す髭剃りを抱きしめる。

「バカだなまだこんなに切れるのに」

「バカはお前だ」

血まみれの俺。

[#書き出し](#)

## ことばうり

---

「こんにちは、僕は言葉を売っている者です。」

うちに来るなり彼がそんなこと言い出した。

「初耳」「欲しい言葉ありませんか？」

あるけどね。

「手持ちの商品お見せします。気に入ったら、買ってね」

願く私。

「愛してます結婚して下さい」

「買う！」

「お代は君のこの先の時間全てです」

バカ。

[#書き出し](#)

## 紐

---

紐と同じで、人の縁というのも絡みに絡まった方が解けにくいんだと思う。

だから僕は君と絡まる。

同じ学校同じアパート同じ恋人。

全てを君に関わらせ複雑に絡んだはずの僕ら。

なのに君は、するりほどける。

僕は僕に絡まっただけだった。

沢山の結び目、真っ直ぐにするには時間がかかりそうだ。

[#書き出し](#)

## 二人組

---

「それじゃあ、二人組を作ってください」  
その一言が、俺の人生を変えるなんて。あの時は思いもしなかった。  
英話の授業。ぼっちな俺。あろう事か先生指すし。  
これは試練だ逃げるな俺。  
一人二役会話をこなして、歩み始めた俳優道。  
今じゃ随分上りつめ、孤高の俳優と呼ばれてる。  
ぼっち言うな。

[#書き出し](#)

## さよならの準備

---

あなたを失う準備の仕上げ。これであなたとさよならよ。

「あなたなんかいなくて平気」

さよならの音がした。

### [#書き出し](#)

「そんな言い方酷い」

黙り込む母。

「ばあばこれじいじから」

娘が差し出す死んだ父からの手紙。

読むと母は突然病室を出た。

「強がりばかりのお前が心配だ」

廊下から嗚咽が聞こえる。

## 干され

---

俺、最近干されっぱなし。  
ロクに仕事もしていない。  
噂じゃ俺の代わりに新人が入ったとか。  
俺って忘れられたかな。  
いけない湿っぽくなった。  
こんなだから干されっぱなしなんだ。  
日陰の身でも頑張れ俺。

[#twnovel](#)

バスタオル長いこと干しっぱだった。  
新しいのも買ったし雑巾にでもしちやおかな。

## プリキュア

---

まず俺がプリキュアになったと仮定しよう。

制服に胸躍らせスマイルチャージ！なんてウフアハしたりもするだろう。

しかしふと我に返る。

そう言えば給与はどうだ。無給じゃないか。

休みはどうだ。無休じゃないか。

つまりこの仮定だけで、プリキュアの雇い主はブラック会社と分かるのである。

[#書き出し](#)

## 負け犬

---

負け犬に分類される俺の主張を聞いてくれ。

負け犬が存在するためには勝ち犬が不可欠。

そしてお前らが結婚したいのは勝ち犬だ。

つまり俺達負け犬なしではお前らの夢は叶わない。

そこんところ考えたらさ、俺になんか言うべきこととかない？

[#書き出し](#)

だからあんたって負け犬なのよ。ばか。

ホントは私...

## 2-1

---

2 - 1 = 0。

恋人の頃はそう思ってた。

あなたがいなきゃ私もいない。

けれど今、奥さんになって、子供も産まれて、残念ながらあっという間にあなたは空の星になって。

私そうは思わない。今の私はこう思う。

2 - 1 = 2。

あなたの愛を知っているから私ひとりで2になれる。

[#書き出し](#)

## 秘密

---

秘密を穴に埋めて殺してしまおう。

僕の決意を知った秘密は僕を見つめ、それから思いがけずニコリと笑う。

そっかバイバイ元気でね。

自ら穴に入る秘密。

君の負担になりたくないのよ本望よ。

そう言う君に土をかける。

さよならさよなら。

[#書き出し](#)

バカね。

僕は秘密を掘り出すと、冷たい唇にキスをした。

## 林檎

---

世界中の幸せをこの林檎に凝縮させてみました。

魔女の一言で世界は戦乱の渦の中。

幸せの独り占めを賭け、焼ける大地、滅びる国。

寝床を焼かれた鳥達は、群れなし魔女へと襲いかかる。転がる林檎を啄む鳥達。

林檎はやがて大地へ還る。芽が出て木となり実をつける。

世界へ広がる美味しい幸せ。

[#書き出し](#)

## まじうける

---

世界滅亡とかマジうけるんですけどー。

神様は困っていた。

じょしこーせーという人が世界の終わりを信じない。

「見て貰うと解るように…」何度言っても笑われる。

今までだってそんなすごくもなかったじゃん。

そう言われると何も言えない。

携帯画面に目を落とし、じょしこーせーは廃墟に行く。

[#書き出し](#)

## かに玉あんかけ

---

かに玉あんかけに恋をした。

なんていうのは君を誘う口実なわけで。

中華カフェで君とデート。

「きみがスキです」「うん、これ凄い黄身がちでいい。恋しちゃうのわかるよー」

告白も受け取って貰えないただの男友達の僕。

安心しきった顔で大口をあけ、美味しそうに食事する君が可愛くも憎い。

[#書き出し](#)

## カップル

---

あなたが好きと言ってくれたとき、私はアンドロイドでした。  
人間のあなたに戸惑う私。だって人って死ぬでしょう。  
すぐ進化して欲しいのに、のんびりなあなた。気付けば死んでしまった。  
一緒にいたい。私の願いを叶えるためにあなたはゾンビになってくれた。  
永遠の時を刻みましょ。

[#書き出し](#)

## 殺す

---

よし、殺す。キチンと殺す、さくっと殺す。綺麗に殺す！

呪文のように唱えながら、あの子の家を通り過ぎる。

好きだと言ってもはぐらかすあの子。この恋心を今日こそ殺す。

「待って」甘い声。殺す。

「ね、朝はちゃんと誘ってね？」可愛い。殺す。

そして絡まる腕。

「うっかりしてた」

返り討ち。

[#書き出し](#)

## 味噌汁

---

「俺にお前の味噌汁作らせて下さい」  
思いつめた顔でそう告げる彼。  
これって求婚よね。恥じらいながら同意の意味で頷く私。

### #書き出し

「契約成立」彼はそう言うと私を鍋に入れようとした。  
「やだ何するの？」彼は私を見つめて言った。  
「恋する甘さ嫉妬の苦さ。不可思議な君は味噌汁の具に向いてる」

## 洗濯機

---

全ての汚れが落ちきった。真っ白な世界。真っ白な人々。

洗濯を始めるようになったのは、全てを洗ってリセットし、平和に暮らしたかったから。

なのに、洗濯回数は増えるばかり。どんどん汚れは増えていく。

「だってどうせ洗うでしょ」

傷つけあい奪い合いながら、洗濯の日を待つ。

[#worldT](#)

## 廃線

---

無人のホームで列車を待つ。私の他にも数人の娘。  
ツノツキの子、羽ツキの子、顔ナシの子。様々だ。  
みんな誰かを待っている。

### [#worldT](#)

列車が滑り込む。扉が開いた。死んだ彼だ。  
「逢いたかった」ハモる声。  
そこに来ていた全員が、待っていたのが彼だった。  
生前の同時恋愛、今ここで暴かれる。

## グリーン

---

世界には花が無かった。世界には草が無かった。世界には木々が無かった。

昔自然と言われたものは全て失われた。こどもは夢見る。

見たことのない花を。見たことのない草を。見たことのない木々を。そして絶滅していった動物たちを。

どこまでも広がる緑。僕の職場はとても美しい。

[#WorldT](#)